

【資料3】

地方独立行政法人 北松中央病院

第7期中期目標の期間の終了時の検討資料【総括版】

（地方独立行政法人 北松中央病院中期ビジョン）

令和7年10月



佐世保市 保健福祉部
医療政策課

目 次

はじめに	P. 1
1 佐世保県北医療圏の現状	P. 2～6
2 北松中央病院の現状	P. 7～11
3 北松中央病院が担う一般診療	P. 12
4 北松中央病院が担う救急医療	P. 13～14
5 5疾病6事業及び在宅医療の状況	P. 15～17
6 佐世保市の地方独立行政法人病院の概況	P. 18～19
7 北松中央病院の地方独立行政法人としての役割	P. 20～21
8 地域医療構想の実現に向けた取り組みについて	P. 22～23

はじめに

地方独立行政法人北松中央病院(以下「北松中央病院」という。)は、平成22年3月31日、佐世保市と北松浦郡江迎町の合併に伴い、設置者を旧江迎町から佐世保市へ承継されて今年で16年目となり、第8期目となる新たな中期目標期間を迎える。

地方独立行政法人法第30条第2項の規定では、中期目標期間の最終年度内(見込評価の終了後)に、当該法人の「業務の継続又は組織の存続の必要性、その他その業務及び組織の全般にわたる検討を行うこと」とされ、「その検討の結果に基づき、業務の廃止若しくは移管又は組織の廃止その他の所要の措置を講ずること」とされている。

令和7年度は第7期中期目標期間の最終年度となることから、地域医療を取り巻く環境や北松中央病院の現状、役割等を踏まえ、主にその業務の継続や組織存続の必要性について検討を行うものである。

医療の提供は、医療法の理念に基づき、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制が確保されなければならない、それは、行政区域にとらわれないことを前提としていることを踏まえ、単に佐世保市のみの利益にとらわれず、二次医療圏をベースとした関係市町及び長崎県との連携・調整を行う中で、医療サービスを提供している地域全体を見据えた位置付けについて検討する必要がある。

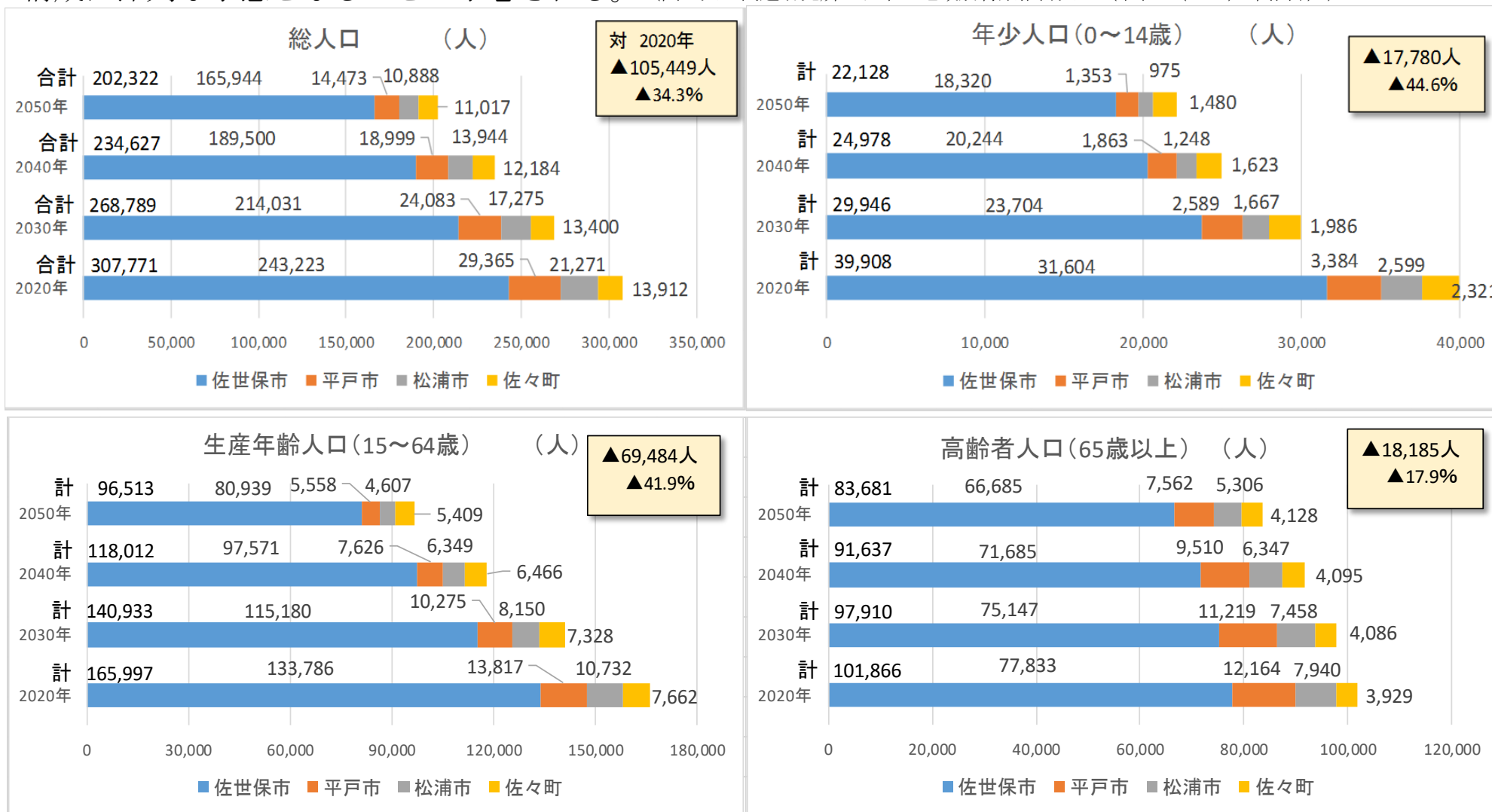
これらを踏まえ、このビジョンは、北松中央病院に対し求める役割を明確にすると同時に、北松中央病院における次期中期目標策定にあたっての基本的な考え方を示すものである。

1 佐世保県北医療圏の現状

(1) 佐世保県北医療圏の人口動態(2020年～2050年の推移)

佐世保県北医療圏の人口は、2050年には、総人口は2020年の307,771人から202,322人へ約10万5千人(34.3%)減少し、そのうち、年少人口は44.6%、生産年齢人口は41.9%減少すると見込まれている。

一方で、65歳以上の高齢者人口は17.9%の減少にとどまり、高齢化率は41.4%となり、当該地域の人口構成は深刻な事態となることが予想される。(国立人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」)



(2) 佐世保県北医療圏の状況(死亡率)

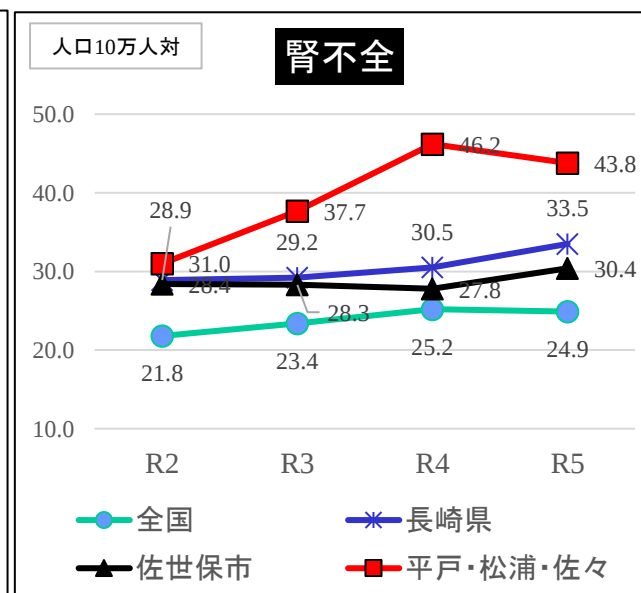
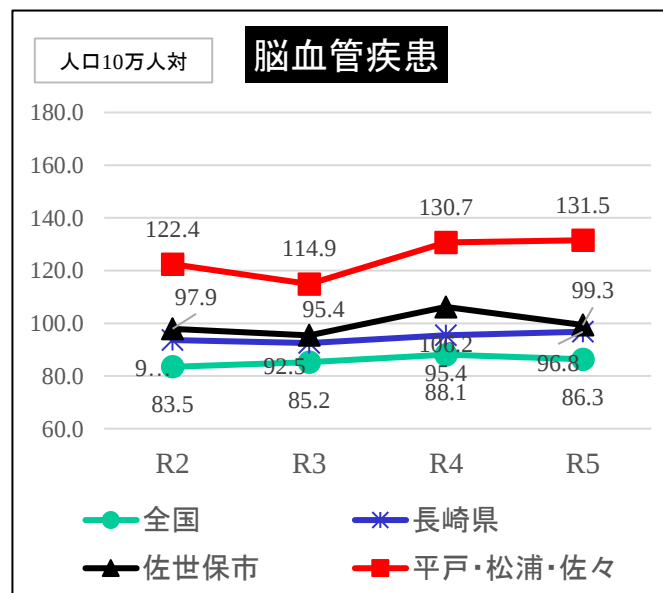
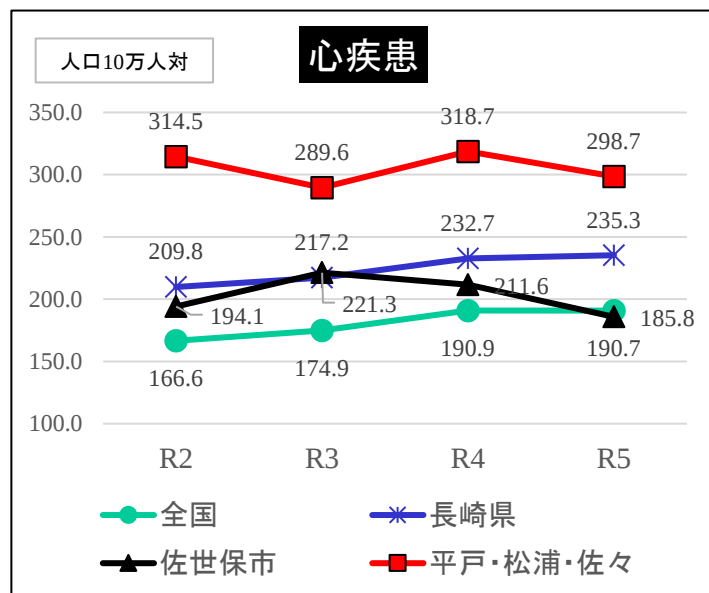
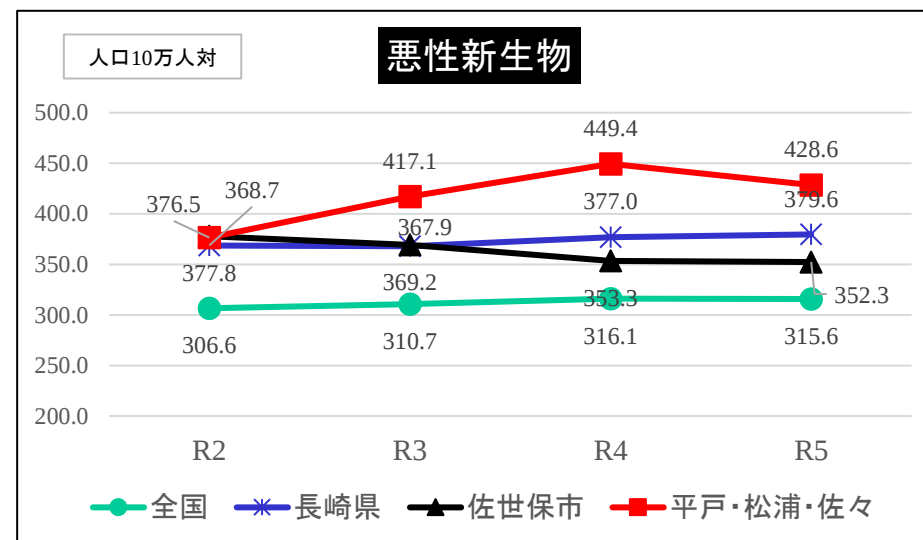
佐世保県北医療圏（佐世保市、県北（平戸市・松浦市・佐々町））の全年齢を対象とした主要疾患別の死亡率（人口10万人対）は、全般的に全国平均より高い。

これは、当該地域の高齢者人口の割合が高く、また生活習慣病等の予防に対する住民意識の程度も影響していると考えられるが、緊急措置を要する疾患を受け入れる医療機関が少ない等、医療体制が脆弱であることが起因していることも否定できない。

■ 主な特定死因の死亡率(R5年)

【衛生統計年報(長崎県)から】

	悪性新生物		心疾患		脳血管疾患		腎不全	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
全国	382,504	315.6	231,148	190.7	104,533	86.3	30,208	24.9
長崎県	4,760	379.6	2,951	235.3	1,214	96.8	420	33.5
佐世保市	823	352.3	434	185.8	232	99.3	71	30.4
平戸・松浦・佐々	264	428.6	184	298.7	81	131.5	27	43.8

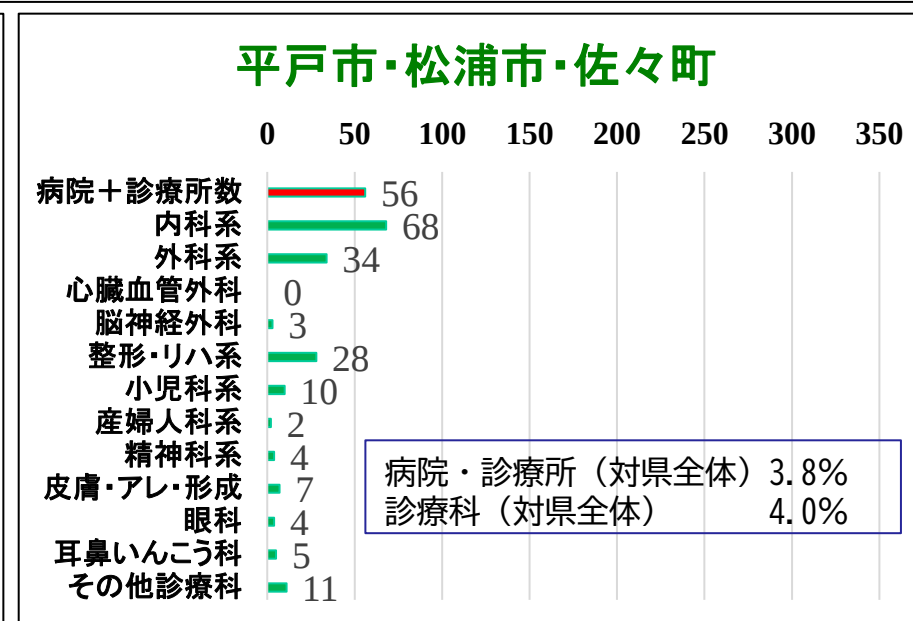
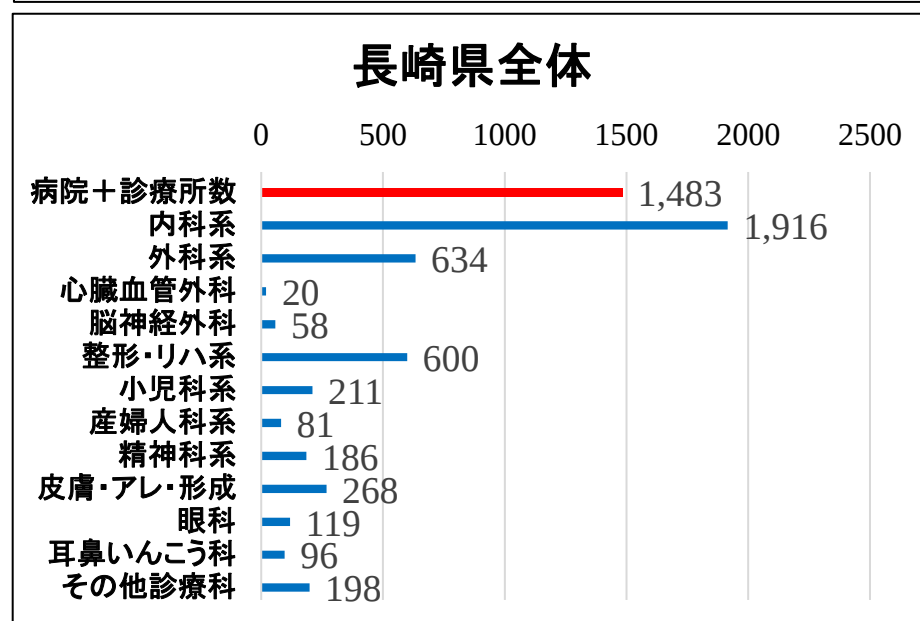
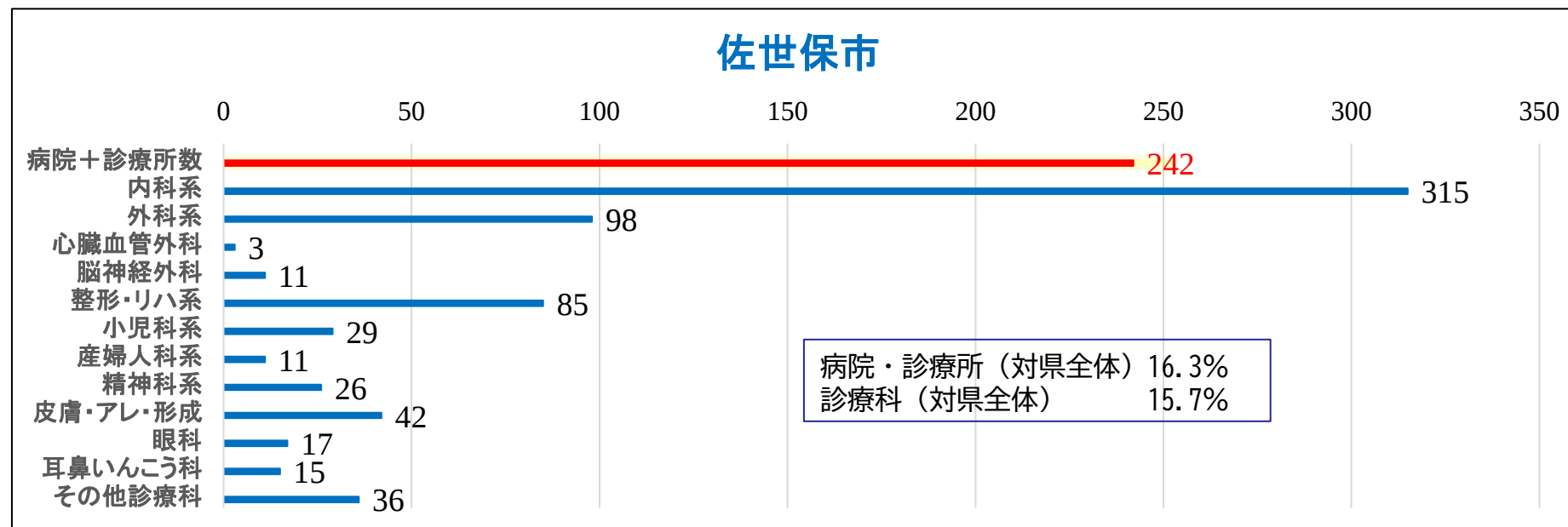


(3) 佐世保県北医療圏の病院及び診療所の状況

佐世保市においては、開業医の高齢化や跡継ぎ不在等により、入院病床を有する診療所から無床の診療所への変更や閉院などが増えており、診療科の偏在等も進んでいる。

平戸市・松浦市・佐々町については、病院・診療所の数、診療科の数が非常に少ないことがわかる。

■病院数・診療所数・診療科目調べ（出典：令和4年長崎県医療施設調査）



(4) 佐世保県北医療圏の医師数(医療施設に従事する医師数)

令和4年12月末現在の佐世保市の医師数は708人で、人口10万人当たりの医師数は298.7人となっている。これは長崎県(327.6人)、県内で救命救急センターがある長崎医療圏(429.2人)や県央医療圏(322.3人)と比較しても少ない状況となっている。

佐世保県北医療圏を構成する佐世保市以外(平戸・松浦・佐々)の医師数は78人、人口10万人当たり123.9人と県下でも低位置にあり、医師の高齢化とも相まってかなり深刻な状況であることが見て取れる。

【長崎県内の医師数】厚生労働省 医師・歯科医師・薬剤師統計から R4.12.31現在(単位:人)

医療圏名称	R4年医師数	人口10万人当り	長崎県との差(10万人当)
長崎県全域	4,203	327.6	0.0
佐世保県北医療圏	786	262.0	▲65.6
【佐世保市】	708	298.7	▲28.9
【県北地域】	78	123.9	▲203.7
(平戸市)	45	158.9	▲168.7
(松浦市)	20	97.5	▲230.1
(佐々町)	13	93.3	▲234.3
長崎医療圏	2,116	429.2	101.6
県央医療圏	849	322.3	▲5.3
県南医療圏	236	191.9	▲135.7
五島医療圏	72	218.2	▲109.4
対馬医療圏	61	225.9	▲101.7
上五島医療圏	35	184.2	▲143.4
壱岐医療圏	48	200.0	▲127.6

(5) 県内医師の年齢階層の構成比

本県の医師総数における年齢階級別医師数は以下のとおり。

佐世保市における60歳以上の医師の構成比は、全国・県と比較しても高い状況であり、医師の高齢化が進んでいる状況である。

【長崎県内の年齢階級別医師数】厚生労働省 医師・歯科医師・薬剤師統計から

R4. 12. 31現在（単位：人）

		総数	平均 年齢	24-29歳	割合 (%)	30-39歳	割合 (%)	40-49歳	割合 (%)	50-59歳	割合 (%)	60-69歳	割合 (%)	70-79歳	割合 (%)	80歳 以上	割合 (%)	60歳以上 (%)
医療施設 従事	全国	327,444	50.3	31,986	9.8	66,951	20.4	66,384	20.3	66,375	20.3	59,261	18.1	28,063	8.6	8,424	2.6	29.2
	長崎県	4,203	53.1	317	7.5	749	17.8	745	17.7	840	20	872	20.7	512	12.2	168	4	36.9
	長崎市	1,933	51.6	168	8.7	402	20.8	366	18.9	351	18.2	364	18.8	201	10.4	81	4.2	33.4
	佐世保市	708	53.5	52	7.3	130	18.4	116	16.4	134	18.9	145	20.5	105	14.8	26	3.7	39
病院	全国	220,096	45.4	31,586	14.4	61,177	27.8	48,782	22.2	39,347	17.9	27,416	12.5	9,408	4.3	2,380	1.1	17.8
	長崎県	2,826	48.2	315	11.1	709	25.1	584	20.7	517	18.3	439	15.5	195	6.9	67	2.4	24.8
	長崎市	1,349	46.4	168	12.5	386	28.6	296	21.9	227	16.8	168	12.5	77	5.7	27	2	20.2
	佐世保市	483	49.4	51	10.6	122	25.3	86	17.8	86	17.8	80	16.6	41	8.5	17	3.5	28.6
診療所	全国	107,348	60.4	400	0.4	5,774	5.4	17,602	16.4	27,028	25.2	31,845	29.7	18,655	17.4	6,044	5.6	52.7
	長崎県	1,377	63.1	2	0.1	40	2.9	161	11.7	323	23.5	433	31.4	317	23	101	7.3	61.8
	長崎市	584	63.6	0	0	16	2.7	70	12	124	21.2	196	33.6	124	21.2	54	9.2	64
	佐世保市	225	62.3	1	0.4	8	3.6	30	13.3	48	21.3	65	28.9	64	28.4	9	4	61.3

2 北松中央病院の現状

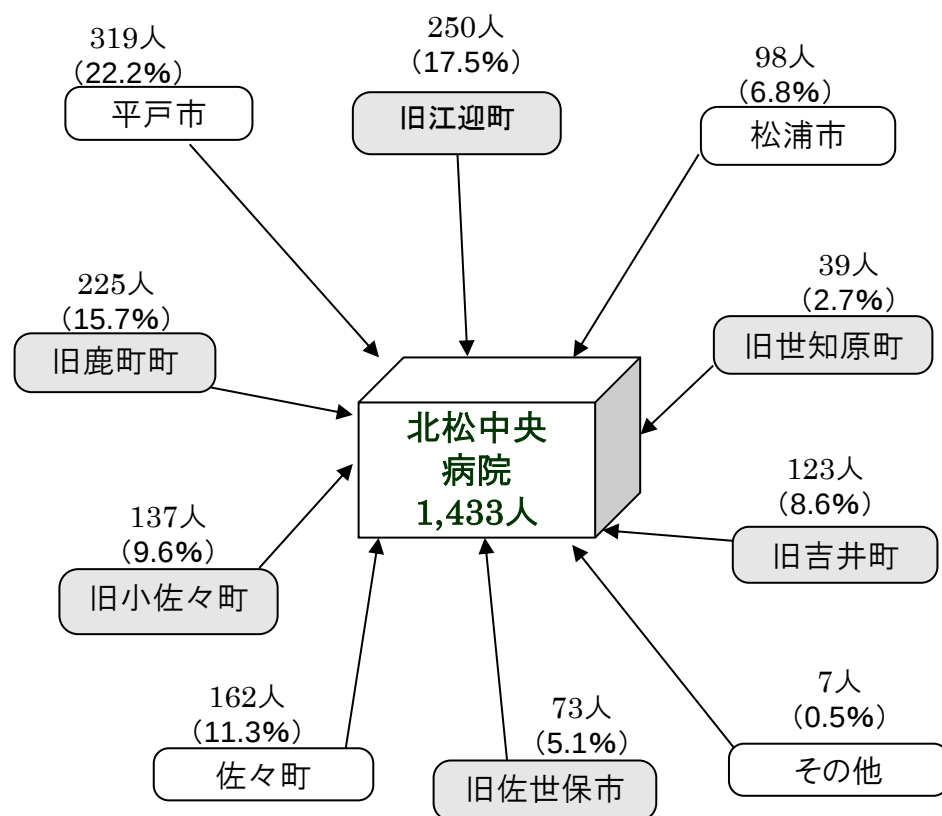
(1) 患者数の状況

北松中央病院の患者数の状況を地域別でみると、入院は全体の0.5%、外来は全体の0.8%が佐世保県北医療圏外となっており、ほとんどが医療圏域内の患者で占められる。

旧佐世保市の患者の割合も低く、入院は5.1%、外来は3.0%であることから、患者のほとんどは旧佐世保市より北の地域から来院していることがわかる。

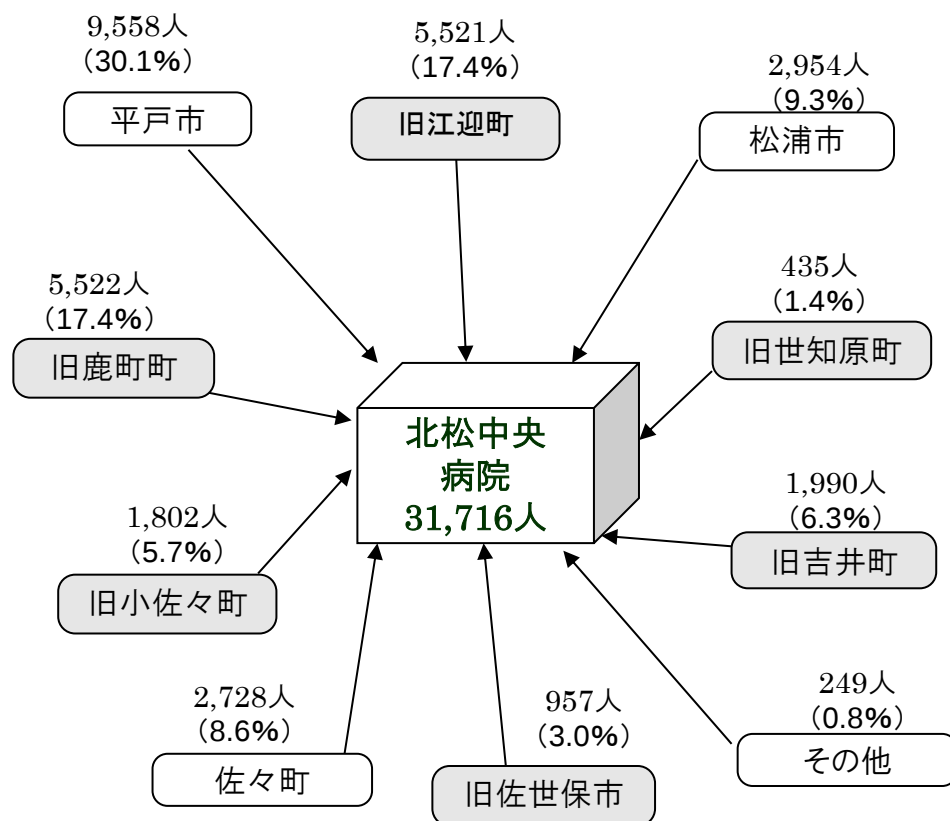
入 院

佐世保県北医療圏	1,426人 (99.5%)
その他圏域外	7人 (0.5%)



外 来

佐世保県北医療圏	31,467人 (99.2%)
その他圏域外	249人 (0.8%)



(出典) 令和6年度地域別患者数

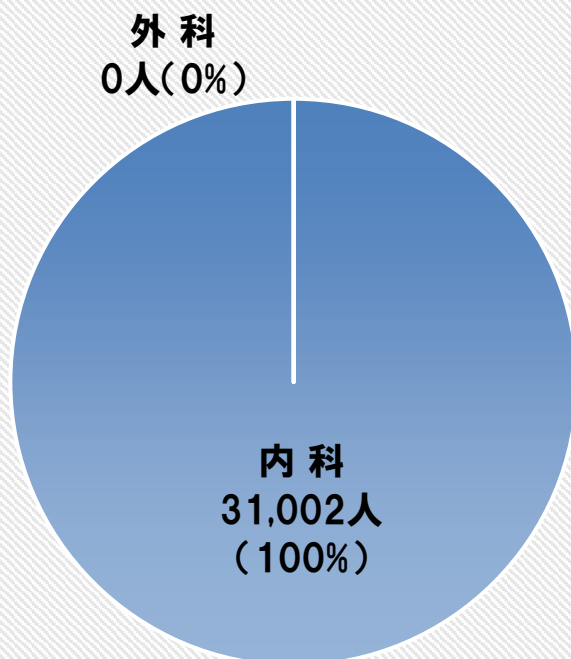
(2) 診療科別患者受入状況

入院は内科が100%となっており、循環器内科・消化器内科・呼吸器内科系の急性期の患者を中心に受け入れている。

外来も内科が65%、外来透析が28%と9割を内科系の患者が占めている。
(R6年度北松中央病院調べ)

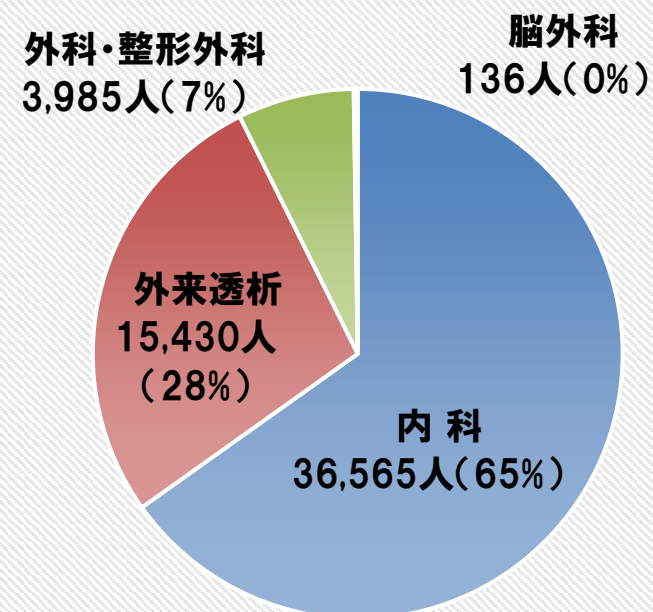
合計 31,002人

R6年度【入院】患者受入割合



合計 56,116人

R6年度【外来】患者受入割合



※ 患者数は延数

(3) 佐世保北部地域等における病院の状況

佐世保市北部（世知原・吉井・小佐々・江迎・鹿町）・平戸・松浦・佐々地域（以下「佐世保北部地域等」という。）の病院が標榜する診療科目は以下のとおり。

北松中央病院は、佐世保北部地域等の病院にない診療（主に急性期の内科系）を担っており、地域の一般診療を支えていることがわかる。

■ 県北地域の病院標榜科一覧（令和7年8月末現在）

（出典）：長崎県「病院一覧」

病院名 (県北保健所管内)	内科	呼吸器	呼吸内	消化器	消化内	消化外	循環器	循環内	糖尿内	内分泌内	血液内科	代謝内	腎臓内	胃腸科	小児科	精神科	神経科	脳神経内	心療内	外科	整形外科	脳神経外	小児外科	眼科	耳鼻咽喉	皮膚科	泌尿器科	リハビリ	放射線	麻酔科	菌科	肛門科	肛門外科	透折内科	救急科			
生月病院	●														●					●	●							●										
平戸愛恵病院																●			●																			
北川病院	●		●		●			●							●														●	●								
青洲会病院	●													●						●	●	●					●	●	●									
谷川病院	●	●		●			●								●											●		●										
柿添病院	●							●			●				●					●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●						
平戸市民病院	●														●					●	●			●				●	●						●			
田中病院	●							●	●												●	●				●		●										
菊地病院	●	●		●																●	●			●		●		●	●									
佐々病院																●	●		●																			
松浦中央病院	●		●		●	●		●												●	●				●		●	●	●	●				●	●			
潜竜徳田病院	●						●								●					●	●					●		●										
北松中央病院	●		●		●			●	●	●		●	●					●			●							●	●									

※ 表の上段は県北保健所管内
下段は佐世保保健所管内

北松中央病院のみ（特に急性期の内科系を担う）

(4) 佐世保北部地域等の主な病院の病床

佐世保北部地域等の主な病院の病床は、慢性期 40 %、回復期 8 %、急性期 48 %となっており、I C U 等の高度急性期は 0 %という状況である。

北松中央病院は、佐世保北部地域等における急性期病床の 30 % (473床中142床) を占めており、主に内科系の急性期医療が必要な入院患者を中心に受け入れている。

また、平成 27 年度に「地域包括ケア病床」15 床を設置し、入院してリハビリ等の治療を行う必要がある患者に対し在宅復帰に向けて支援を行っており、令和 7 年度には、5 階病棟を 36 床の回復期機能を有する「地域包括ケア病棟」へ転換している。

2023年(令和5年)7月1日時点

【一般及び療養病床】	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床等	合計
青洲会病院(平戸)		50	24	109		183
柿添病院(平戸)		52		59		111
平戸市民病院(平戸)		58		29		87
生月病院(平戸)		52				52
谷川病院(平戸)				54		54
北川病院(平戸)		52				52
菊地病院(松浦)			52			52
田中病院(松浦)				79		79
松浦中央病院(松浦)		67				67
潜竜徳田病院(江迎)				60		60
北松中央病院(江迎)		142			45	187
合計	0	473	76	390	45	984
		48%	8%	40%	5%	100%

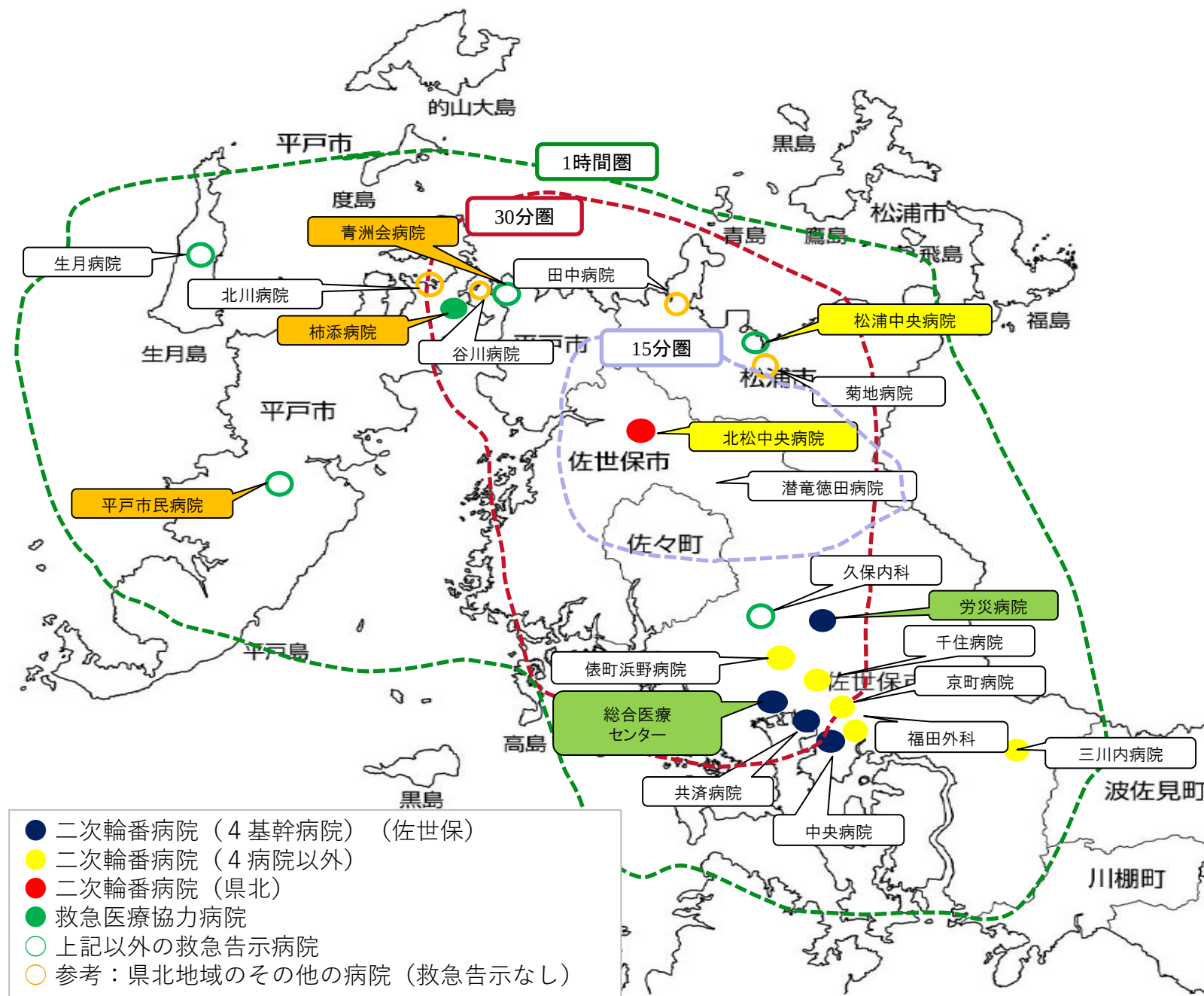
(出典)長崎県「病床機能報告制度」

2025年以降における病床数(予定)

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床等	合計
	30	44	109		183
	40		50	21	111
	58		29		87
	42	10			52
			46	8	54
	48				48
		48		4	52
			78		78
	50	50			100
			40		40
	102	36		45	183
0	370	188	352	78	988
	37%	19%	36%	8%	100%

(出典)令和7年度第1回佐世保県北区域地域医療構想調整会議資料(1-3-1具体的対応方針)

(5) 病院機能とエリアの相関



3 北松中央病院が担う一般診療

- (1) 一般診療においては、北松中央病院から15分圏内における病院は少なく、急性期の内科系の診療科等を中心に、北松中央病院がこれを担っていることがわかる。
- (2) 北松中央病院は、佐世保北部地域等から、外来・入院あわせて（実患者数）3万人を超える患者を受け入れている。（延患者数では約8万7千人）
佐世保北部地域等の他の病院・診療所の状況からも、今後も佐世保北部地域等の中心となって安定的に医療を供給する必要がある。
- (3) 北松中央病院には、佐世保北部地域等における他の医療機関が機能として保有していない科目があり、各診療科において他の医療機関と連携し、高度専門医療を提供している。
- (4) 佐世保北部地域等における急性期病床の3分の1を保有し、入院治療を行っている。
長崎県地域医療構想の実現に向け、佐世保北部地域等の実情に応じて回復期病床を拡充し、急性期医療から回復期医療を提供する地域の中心的医療機関として、市内の救急・入院医療体制の安定に努めていくこととしている。

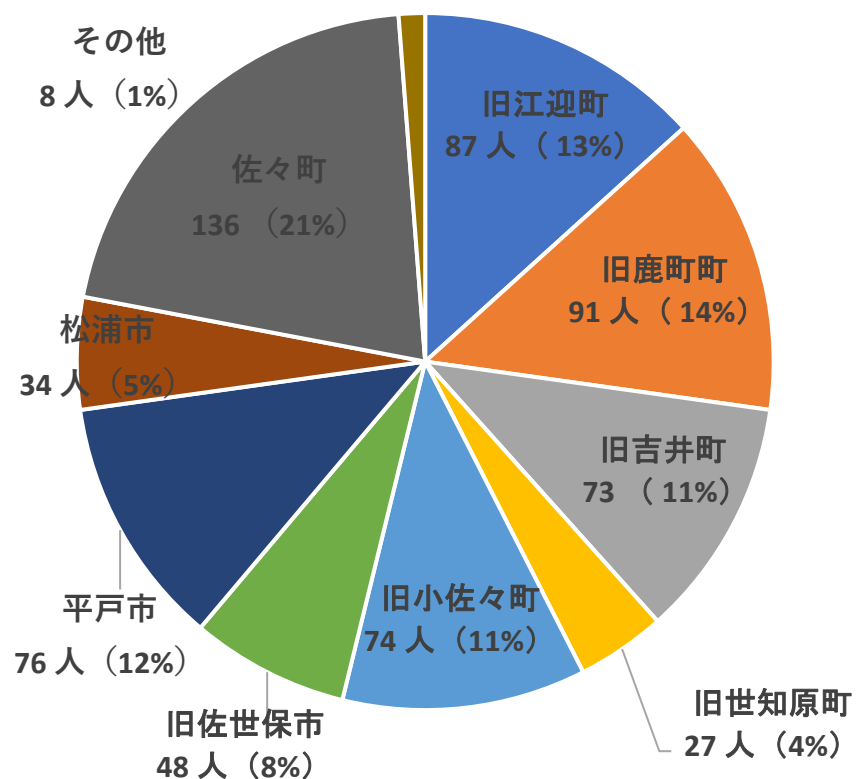
4 北松中央病院が担う救急医療

(1) 患者数の状況

令和6年度の救急患者受入人数は1,992人で、このうち654人(32.8%)が救急車による救急搬送患者となっている。

地域別では、その大半が佐世保市以北、佐々町、平戸市及び松浦市の患者であり、旧佐世保市の患者数はわずか8%程度となっている。

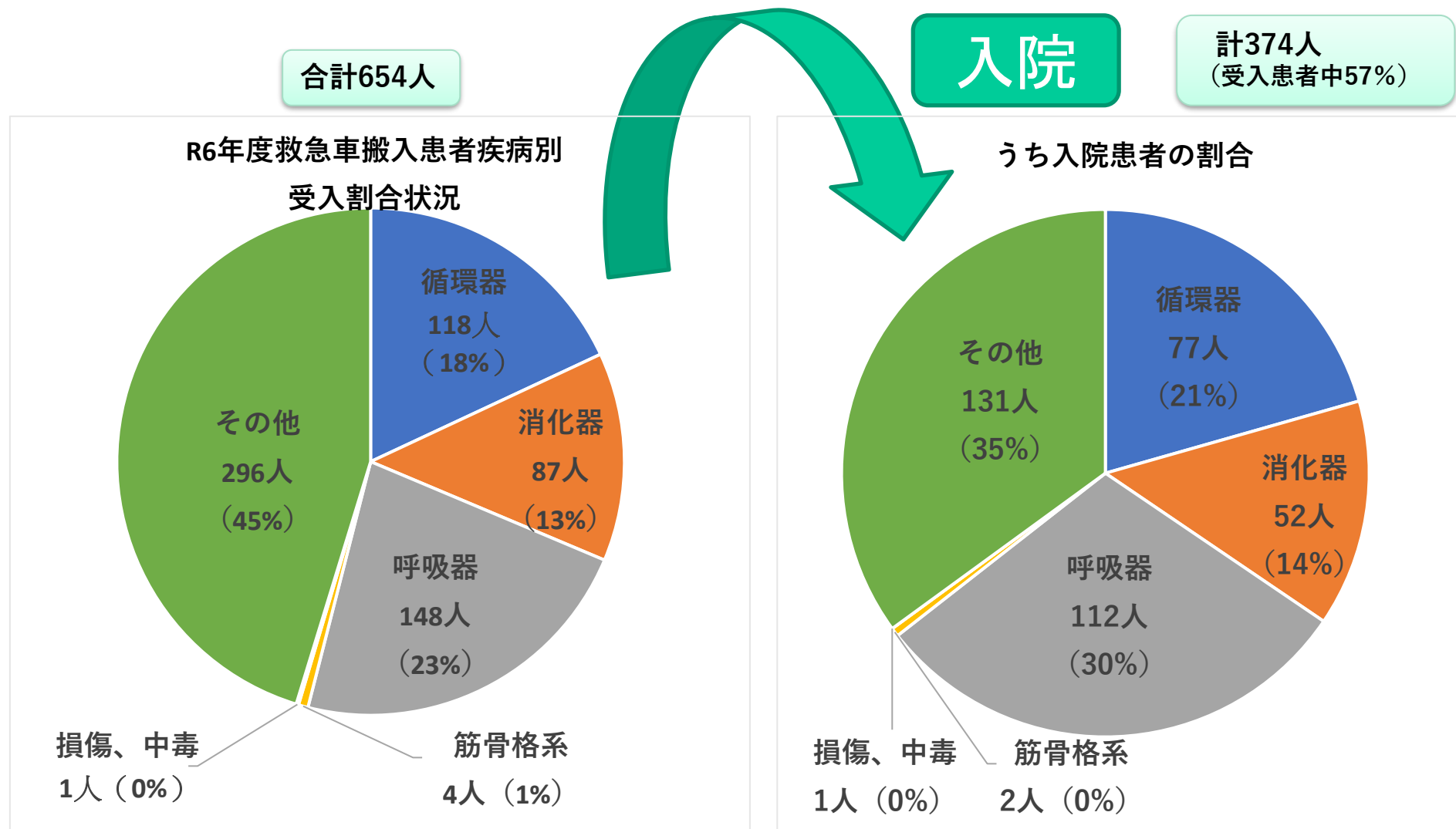
R6年度救急車搬入患者地域別受入状況



(2) 疾患別及び入院患者の割合

北松中央病院への救急搬送患者の受入状況（R 6 年度実績）は、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科を中心とした内科系急性期患者等 6 5 4 人を受入れ、うち 3 7 4 人（5 7 %）が入院となっている。

令和 6 年度から佐世保市二次救急輪番病院へ参入したこともあり受入件数は増加しており、近隣において救急医療を担う病院は限られる中、救急患者を受け入れる医療機関としての役割は重くなっている。



5 5疾病6事業及び在宅医療の状況

医療法に定める5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）、6事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療、新興感染症等）及び在宅医療を実施する佐世保北部地域等の病院は次のとおり。

(1)5疾病

病院名	がん (診療実績)	脳卒中 (診療科目・実績)	急性心筋梗塞 (対応可能な治療内容・実績)	糖尿病 (対応可能な治療内容)	精神疾患 (診療科目)
青洲会病院(平戸)	悪性腫瘍手術 病理組織標本作製 化学療法 抗悪性腫瘍剤局所持続注入	脳神経外科 脳血管疾患等リハ		インスリン療法 糖尿病患者教育 糖尿病合併症の継続的管理・指導	
柿添病院(平戸)	悪性腫瘍手術 病理組織標本作製 化学療法 抗悪性腫瘍剤局所持続注入	脳神経外科 脳血管疾患等リハ		インスリン療法 糖尿病患者教育 糖尿病合併症の継続的管理・指導	
平戸市民病院(平戸)	悪性腫瘍手術 病理組織標本作製 化学療法 抗悪性腫瘍剤局所持続注入	脳血管疾患等リハ		インスリン療法 糖尿病患者教育 糖尿病合併症の継続的管理・指導	
生月病院(平戸)	病理組織標本作製 化学療法	脳血管疾患等リハ			
谷川病院(平戸)	化学療法	脳血管疾患等リハ			
北川病院(平戸)	病理組織標本作製 化学療法	脳血管疾患等リハ		インスリン療法 糖尿病患者教育 糖尿病合併症の継続的管理・指導	
菊地病院(松浦)	化学療法	脳血管疾患等リハ			
田中病院(松浦)		脳神経外科			
松浦中央病院(松浦)	悪性腫瘍手術 病理組織標本作製 化学療法	脳血管疾患等リハ	ペースメーカー移植術 経皮的冠動脈形成術 大動脈バルーンパンピング法 心大血管疾患リハ	インスリン療法 糖尿病患者教育 糖尿病合併症の継続的管理・指導	
潜竜徳田病院(江迎)	化学療法	脳血管疾患等リハ	ペースメーカー移植術		
北松中央病院(江迎)	病理組織標本作製 化学療法 抗悪性腫瘍剤局所持続注入	脳神経内科 脳血管疾患等リハ	ペースメーカー移植術 経皮的冠動脈形成術 大動脈バルーンパンピング法 心大血管疾患リハ	糖尿病内科 インスリン療法 糖尿病患者教育 糖尿病合併症の継続的管理・指導	
平戸愛恵病院(平戸)					精神科、心療内科
佐々病院(佐々)					精神科、心療内科

(出典)長崎県「病床機能報告制度」「病院一覧」「医療情報ネット(ナビイ)」

R6年度
北松中央病院
がん治療実績

	化学療法	内分泌療法	手術目的 紹介	内視鏡的 切除	緩和医療	フォロー アップ目的、診療	治療希望 なし	計
肺	6				5	2		13
直腸			4			1		5
盲腸						1		1
結腸	2		8	4	1	2		17
膵	1		1		3	2		7
胆のう					1	1		2
胃	4		5	3	6	2		20
リンパ						1		1
膀胱						1	1	2
肝			3		1	2		6
食道			1			1		2
気管支	1					2		3
腎						2		2
乳		1						1
皮膚						1		1
下咽頭						1		1
舌						1		1
前立腺						1		1
卵巣			2					2
子宮					1			1
白血病						1		1
合計	14	1	24	7	18	25	1	90

R7年6～8月
北松中央病院
主要疾患地域
別延べ患者数

13,644人

糖尿病	R7.6～8月延人数		循環器	R7.6～8月延人数		透析	R7.3現在実人数	
江迎町	20	11.3%	江迎町	254	13.4%	江迎町	20	18.0%
鹿町町	16	9.0%	鹿町町	284	15.0%	鹿町町	19	17.1%
佐々町	12	6.8%	佐々町	169	8.9%	佐々町	7	6.3%
小佐々町	17	9.6%	小佐々町	108	5.7%	小佐々町	12	10.8%
吉井町	11	6.2%	吉井町	83	4.4%	吉井町	8	7.2%
世知原町	4	2.3%	世知原町	24	1.3%	世知原町	3	2.7%
田平町	15	8.5%	田平町	208	11.0%	田平町	9	8.1%
生月町	10	5.6%	生月町	134	7.1%	生月町	8	7.2%
大島村	4	2.3%	大島村	19	1.0%	大島村	0	0.0%
松浦市	26	14.7%	松浦市	135	7.1%	松浦市	11	9.9%
佐世保市	7	4.0%	佐世保市	59	3.1%	佐世保市	3	2.7%
平戸市	35	19.8%	平戸市	408	21.5%	平戸市	11	9.9%
その他	0	0.0%	その他	12	0.6%	その他	0	0.0%
延計	177	100.0%	延計	1,897	100.0%	実計	111	100.0%
延患との比率		1.3%	延患との比率		13.9%			

(2) 6事業及び在宅医療

病院名	救急医療 (救急告示病院)	災害時における医療 (災害拠点病院)	へき地の医療 (へき地医療拠点 病院)	周産期医療	小児医療	新興感染症等 (感染症指定医療 機関)	在宅医療 (在宅療養支援病院)
青洲会病院(平戸)	●		●				●
柿添病院(平戸)	●						
平戸市民病院(平戸)	●						●
生月病院(平戸)	●						●
谷川病院(平戸)							
北川病院(平戸)							
菊地病院(松浦)							●
田中病院(松浦)							
松浦中央病院(松浦)	●						
潜竜徳田病院(江迎)							
北松中央病院(江迎)	●	●				●	地域包括ケア病棟 入院料

(3) 北松中央病院の取組

① 5 疾病

精神疾患を除く 4 疾病に対応している。

「がん」については、佐世保県北医療圏内に、地域がん診療拠点病院として佐世保市総合医療センター、長崎県指定がん診療連携推進病院として佐世保中央病院があるが、圏域内すべてのがん患者をこれらの病院で対応することは不可能であることから、一定のがん治療の実績がある北松中央病院は、今後も拠点病院と役割分担しながら取り組んでいく必要がある。

② 6 事業及び在宅医療

救急、災害、新興感染症等、在宅医療に対応している。

災害拠点病院、感染症指定医療機関としては、佐世保北部地域等唯一の病院として機能している。

在宅医療についても、訪問看護ステーション・地域包括ケア病棟を有する等、地域の中心的役割を果たしている。

6 佐世保市の地方独立行政法人病院の概況

(1) 北松中央病院と佐世保市総合医療センターの概況

佐世保市総合医療センター		北松中央病院
【診療科数:31】内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、血液内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ科、緩和ケア内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、歯科、麻酔科、リハビリテーション科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、救急集中治療科、病理診断科、臨床検査科	標榜診療科目	【診療科数:11】内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、整形外科、内分泌内科、神経内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、放射線科、リハビリテーション科
医療センター(本院) 563床(一般539、感染症4、結核20) ※宇久 17床	病床数	185床(一般183床(地域包括ケア病床36床含む))・感染症病床2床)
救命救急センター、地域周産期母子医療センター、高次脳卒中センター、救急告示病院、地域災害拠点病院、地域医療支援病院、臨床研修病院、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院、エイズ治療拠点病院、第2種感染症指定病院、病院機能評価(3rdG:Ver3.0)、各学会認定研修病院	特 色	血液浄化センター(50床)、救急告示病院、訪問看護ステーション、エイズ地域協力病院、地域災害拠点病院、第2種感染症指定、長崎DMAT指定病院、災害救命用ヘリポート設置
入院 158,816人／365日(435人／日)(付属診療所含む) 外来 210,182人／244日(861人／日)(付属診療所含む)	患者数	入院 31,002人／365日(85人／日) 外来 56,116人／244日(229人／日)
72.1% 【参考:R5年度 72.8%】	病床利用率	59.0% 【参考:R5年度 49.0%】
11.1日(宇久診療所除く本院のみの数値)	平均在院日数	17.6日
7対1	看護師配置	10対1

(2) 佐世保市総合医療センターと北松中央病院の中期目標比較(提供する医療サービス)

佐世保市総合医療センター 【第4期中期目標(R7～9)】	北松中央病院 【第7期中期目標(R5～7)】
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 地域完結型医療の推進 2 提供する医療サービスの充実 (1) 救急医療 (2) がん医療 (3) 小児・周産期医療 (4) 高度専門医療 (5) 政策医療 3 医療人育成体制の充実 (1) 医師の研修制度の充実 (2) 看護師・薬剤師をはじめとする医療従事者の育成の充実 4 医学研究の推進 5 医療の質の向上 (1) 施設・設備の充実 (2) 医療従事者の確保 (3) 患者サービスの向上 (4) 安全性の高い信頼される医療 6 情報提供の充実 (1) 分かりやすい保健・医療の情報発信 (2) 病院情報の公開	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 地域で担うべき医療の提供 (1) 地域の実情に応じた医療の提供 (2) 高度・専門医療 (3) 救急医療 (4) 生活習慣病(予防)への対応 (5) 感染症医療・災害対策 (6) リハビリテーションの充実 (7) 介護保険サービス 2 医療水準の向上 (1) 医療従事者の確保 (2) 医療従事者の専門性及び医療技術の向上 (3) 医療人材の育成 (4) 臨床研究の推進・医療の質の向上 (5) 施設・設備の充実 3 患者サービスの向上 (1) 院内環境の快適性向上 (2) 患者満足度の向上・インフォームドコンセントの徹底 (3) 職員の接遇向上 (4) 医療安全対策の実施 4 地域医療機関等との連携 (1) 地域医療機関との連携 (2) 地域医療への貢献 5 市の施策推進における役割 (1) 市の保健・医療・福祉行政との連携

7 北松中央病院の地方独立行政法人としての役割

【北松中央病院の業務の継続と組織の存続について】

地方独立行政法人は、その行う事務及び事業が住民の生活、地域社会及び地域経済の安定等の公共上の見地から確実に実施されることが必要であり、適正かつ効率的にその業務を運営するよう努めなければならないとされている。

北松中央病院は、一般診療では地理的な医療の空白を埋め、救急では佐世保北部地域等(平戸市、松浦市、佐々町、旧世知原町、旧吉井町、旧小佐々町、旧江迎町、旧鹿町町)に加えて旧佐世保市内の患者も受け入れており、旧佐世保市内における救急病院群への医療供給を調整する役割を担っている。

また、透析医療をはじめ、患者の早期在宅復帰を支援するリハビリテーションの充実や在宅医療の提供など、地域において必要とされる医療を継続的に提供していることから、今後も医療資源に乏しい佐世保北部地域等において、引き続き住民が安心して日々の生活を営めるよう、安定的にその役割を果たすべき必要があるものと判断する。

また、平成17年度に地方独立行政法人化され、20年が経過しているが、この間、令和元年度、5年度及び6年度を除けば黒字決算であり、かつ、利益剰余金は令和6年度末時点でおおよそ7.5億円を計上している状況で、各種経営の安全性を示す数値からみても経営上は継続的に安定しているものと判断できる。

以上のことから、北松中央病院が、地方独立行政法人法に基づき設置された公立病院として取り扱う業務ならびに本市に存在する意義は極めて明確かつ重要であり、引き続き、地方独立行政法人として、地域住民が安心して日々の生活を営めるよう、安定的にその役割を果たすべき必要があるものと結論付ける。

【佐世保市総合医療センターとの関係】

●総合医療センターは、高度医療という「特殊性(専門性)」と、不足する診療科領域の最後の受け皿としての高い「安定性」を実現している佐世保県北地域における最大の基幹病院である。

また、平成24年4月から「救命救急センター」が設置され、高度医療の提供はもちろんのこと、救急医療、研修施設としての医療人育成、臨床研修センターによる地域医療のレベル向上が期待され、地域へ果たす役割はますます大きくなることが予測される。

●北松中央病院は、佐世保市北部地域において安定的に地域医療を提供すると同時に、総合医療センターが中核をなす旧佐世保市内救急病院群への医療供給調整を行いつつ、旧佐世保市内の救急患者も受け入れており、救急医療における役割分担は、佐世保・県北圏域全体を考えた場合、すでに適当なバランスの上に成立していると思われる。

したがって、今後とも、同じ佐世保市が設置者である公立病院として、現在の役割分担を維持しつつも、従来からの連携体制をより深化させた関係の中で、効率的・効果的な医療提供や実務上の協力を、協力可能な分野において積極的に推進していく必要がある。

北松中央病院の役割

1 地域で担うべき医療の提供

- 地域の実情に応じた医療（地域で必要とされる内科系の入院・外来機能の維持）
- 高度・専門医療（他の医療機関では担うことが困難な内科系疾患への対応）
- 救急医療（佐世保県北医療圏における救急医療の安定供給）
- 生活習慣病への対応（早期発見と予防）
- 感染症医療・災害対策（感染症指定医療機関としての中核的な役割・災害時の体制整備）
- リハビリテーションの充実（早期の在宅復帰支援、患者の機能回復支援）
- 介護保険サービス（地域に必要とされる体制の維持・補完）

2 医療従事者の確保

- 修学・育成支援策による確保と教育・勤務環境の向上

3 地域医療機関等との連携

- 将来の医療需要を見据えた役割・機能の明確化
- 地域の中核病院として積極的な医療機関との役割分担・連携

8 北松中央病院の主な方向性

【大項目】第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

中項目	小項目	内容
1 地域で担うべき医療の提供	(1) 地域の実情に応じた医療の提供	・佐世保北部地域等における人口の減少、高齢化及び疾病構造など、地域医療を取り巻く環境変化に注視し、 <u>地域包括ケアシステムの中で公立病院としての役割を果たすとともに、安全・安心な質の高い医療を提供する。</u>
	(2) 高度・専門医療	・佐世保北部地域等において、他の医療機関では担うことが困難な内科系疾患における高度・専門医療を提供する。
	(3) 救急医療	・地域の医療機関や救急隊との連携により救急搬送を受け入れ、初期・二次救急医療を提供する。
	(4) 生活習慣病(予防)への対応	・各種健診を実施し、生活習慣改善指導に努める。 ・血液浄化センターにおいて、腎不全患者への対応にあたる。
	(5) 感染症医療・災害対策	・第二種感染症指定医療機関として、関係機関と連携し、佐世保北部地域等における感染症診療の中核的役割を果たす。 ・地域災害拠点病院として、大規模な災害や事故の発生に備え、必要な人的・物的資源を整備し、迅速な医療救護活動を実施できる体制を維持する。 ・災害時における事業の継続性を強化するための体制整備に努める。
	(6) リハビリテーションの充実	・入院患者の早期の在宅復帰と外来患者の運動機能回復を支援するため、状態に応じたリハビリテーションを提供する。
	(7) 介護保険サービス	・在宅での介護や治療を安心して行える体制を維持するため、在宅サービスを提供する。
2 提供する医療サービスの充実	(1) 医療従事者の確保	・引き続き、修学・育成支援策に取り組む。 ・ <u>医師においては、最大の派遣元である長崎大学との連携を強化する。</u> ・医療従事者の教育・勤務環境の向上及び福利厚生面の充実を図る。
	(2) 医療従事者の専門性及び医療技術の向上	・研修会・勉強会・学会に参加し、専門知識の修得と技術の向上に努める。
	(3) 医療人材の育成	・医師、看護師、薬剤師等の学生に対する臨床研修の場として役割を果たす。

中項目	小項目	内容
2 提供する医療サービスの充実	(4) 臨床研究の推進	・積極的に臨床研究に参加し、医療の発展に寄与する。
	(5) 施設・設備の充実	・施設の維持及び医療機器の整備を計画的に行う。 ・施設の老朽化に伴う長寿命化に加え、 <u>将来の病院建替えの要否についても検討する。</u>
3 患者サービスの向上	(1) 患者満足度の向上・インフォームドコンセントの徹底	・ <u>アンケート等により実態等を把握し、必要に応じ改善を加えるなど、患者や家族が安心して医療を受けられるような環境を整備し、患者に寄り添ったサービスの向上を図る。</u>

【大項目】第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 効率的な業務運営と情報公開		・医療を取り巻く環境の変化に的確かつ機動的に対応するため、法人運営体制の機能を強化し、 <u>中長期的な経営戦略を立て、効率的な業務運営を行う。</u>
2 経営管理人材の育成		・経営管理に携わる職員の専門的な知識と意欲の向上を図るため、 <u>計画的な教育・研修の充実に努め、質の高い人材を育成する。</u>
4 DXの推進		・ <u>デジタル技術を積極的に活用し、業務運営の改善・効率化を推進する。</u>

【大項目】第4 財務内容の改善に関する事項

1 経営基盤の確立と財務体質の強化		・収支の状況を迅速かつ的確に把握し、分析したうえで、 <u>効率的かつ効果的な病院運営に努め、健全経営を維持する。</u>
-------------------	--	---

【大項目】第5 その他業務運営に関する重要事項

1 地域医療構想の実現に向けた取り組み		・ <u>将来の医療需要を見据えた役割及び機能を明確にし、地域の医療機関と連携を行う。</u>
2 働き方改革の推進		・ <u>医師の働き方改革を踏まえ、人員の確保や適切な労務管理を行い、タスクシフトやタスクシェアの推進、ICTの活用などにより、全ての職員が働きやすい職場環境を整備する。</u>
3 新興・再興感染症への対策と対応		・ <u>第二種感染症指定医療機関として、新興再興感染症等の感染拡大時に必要な対策が機動的に講じられるよう、平時から医療体制を整備しておく。</u>